學術講論會

第 45 回
2018. 11. 16

講　題 / テーマ：
欧州に於ける東アジア、取り分け日本学の形成と発達

講　師：
Willy. F. Vande Walle（天主教魯汶大學文學部名譽教授特任教授、東洋學科教授）

▲ Willy. F. Vande Walle 教授

摘要：

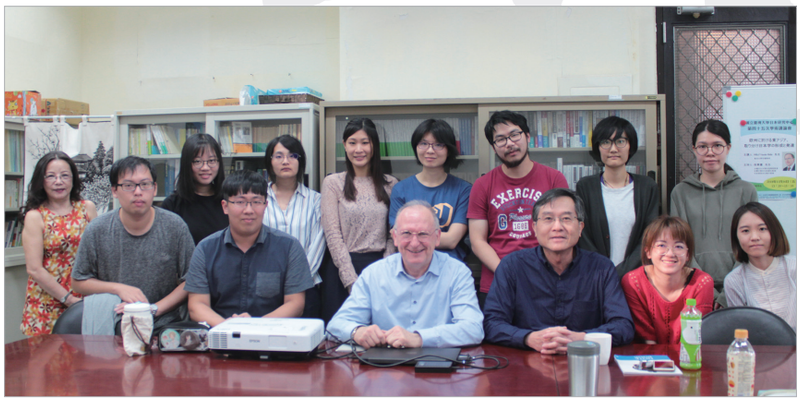
19 世紀前半，鴉片戰爭前後歐洲對東亞各國除了關注貿易、外交，也日益關注學術方面的內容。雖然人數極其有限，但當時已有一些學者自覺到，爲了理解亞洲歷史、政治、文化、社會、經濟等，必須學習亞洲各國語言、並且根據近代學術方法來研究東洋的文獻。不久，他們在 19 世紀後半至 20 世紀就逐漸建構起歐洲亞洲學的基礎。他們沿襲 16 世紀在日本活躍的傳教士們與 17 世紀入華傳教士們的學術成果，並且根據散布歐洲各國的業餘研究者和學者，以及 19 世紀以來修道派傳道士、傳教士的報告與研究成果，編輯出版學習中國文言文、白話文、日文所需的教科書、辭典和參考書。另外，在高等教育層級的組織方面，他們開設了專門講座，並爲亞洲、特別是中國與日本文化研究帶來了很大的刺激。此外，也創設學術性團體，藉由舉辦學會來增進學者間的交

要旨：

19世紀前半、アヘン戦争を前後してヨーロッパに於ける東洋諸国への関心は、貿易・外交などもさることながら、学問的な観点からも益々高まっていく。ごく限られた人数ではあったが、アジアの歴史、政治、文化、社会、経済等を理解するためには、アジア諸国の言語を学習し、近代的な学術の方法を踏まえて、東洋の文献を研究する必要性を自覚する学者が登場する。やがて彼らは19世紀後半から20世紀にかけてヨーロッパのアジア学の基盤を築き上げていく。彼らは16世紀に日本で活躍した宣教師達と17世紀に入華した宣教師達の学術的な業績、さらにヨーロッパ各国に散在するアマチュアや学者、そして19世紀以来の修道派の伝道師や宣教師の報告や研究成果を踏まえて、古典中国語、白話、日本語などの学習に必要な教科書類、辞書類、参考書を編集し、出版

学術講演会

第 45 回　2018.11.16



▲學生提問

流，並開拓各式研究主題。在荷蘭，首任日本學教授於 1855 年就任，不久後在法國也開設了日本學講座。在當時，比起專注於一個語言或一項文化，更傾向於橫跨複數研究領域、把廣泛領域納入視野的研究。在本講座中，將同時關照幾乎平行發展之中國研究的形成，在追溯日本學這門學問的形成與成熟的同時，也評價主要的學派及學者的貢獻。✦

する。また、高等教育レベルの組織に於いて、専門講座を開設し、アジア、とりわけ中国や日本文化に対する研究に大きな刺激を与える。また、学術的団体を創設し、学会を開催することによって学者同士の間の交流を図り、様々な研究テーマを開拓する。オランダでは、初代日本学教授が1855年に就任し、まもなくフランスでも日本学の講座が開設される運びとなる。当時、一つの言語、一つの文化に専念するよりも、複数の研究領域を兼ねて広範な領域を視野に入れる傾向がある。本講座では、ほぼ平行に展開する中国研究の形成をも有る程度まで視野に入れて、学問としての日本学の形成と成熟を追跡するとともに、主な学派や学者の貢献を評価することとする。✦

第 46 回
2018. 12. 13

講　題 / テーマ：
日本の親孝行文化～江戸から現代まで

講　師：
勝又基（明星大學教授）

▲勝又基教授

摘要：

在日本，孝道德在過去因與軍國教育連接，給人較爲負面的印象。然而，若要以同時代的眼光如實地理解江戶時代，絕不能忽視孝這個在江戶時代普世認爲是善的道德，其所蘊含的能量。因此，有必要 180 度翻轉過去的看法，以「孝是江戶文化的中心」這個觀點來思考。

江戶時代盛行的孝子表揚尤其扮演了重要的角色。因爲實踐孝的道德行爲與表揚孝子的政治行動、以及撰寫孝子傳的文學活動等，都成爲了複合性文化活動的引燃劑。

我將舉出江戶時代的孝子表揚裡饒富興味的駿河國五郎右衛門、山梨的假基督徒兄弟等例子，來解釋孝子表揚在江戶文化裡作爲引燃劑的具體功用。

要旨：

孝道徳は、日本においては軍国教育につながった過去があったため、これまで否定的に捕らえられて来た。しかし、江戸時代をその時代の目からありのままに捉えるためには、孝という、江戸時代には全ての人が善だと考えていた道徳が持っていたエネルギーは無視できない。従来の考えを180度転換して、「孝は江戸文化の中心であった」と考える必要がある。

とくに、江戸時代に盛んだった孝子表彰は、大きな役割を果たした。孝の実践という道徳行為、孝子表彰という政治行為、孝子伝を書くという文学行為など、複合的な文化的な動きの起爆剤となったからである。

江戸時代の孝子表彰のうち、駿河国五郎右衛門や、山梨の偽キリシタン兄弟など、いくつかの興味深い例を示して、その起爆剤としての役割を明らかにする。

第 46 回　2018.12.13

但是，現今的日本社會幾乎不再表揚孝子。箇中的經緯並非以「對軍國教育的反省」就能完整解釋。實際上，在昭和 50 年代，各地表揚孝子的制度有復興的情形，但如今孝子表揚制度卻幾乎消失殆盡。與其說這是警戒軍國主義的復活，毋寧說「個人資料保護」「平成大合併」等政策的實施才是主要原因所在。

我將以目前僅存的山口周南市的例子、以及因表揚孝子而在報紙上遭到批評的茨城縣小美玉市等例子，來論述戰後日本與孝之間的關係。✦

▲聽眾提問

▲學生提問

しかし現代、日本で孝子表彰がほとんど行われていない。そこに至るまでの紆余曲折は、単に「軍国教育への反省」説明できるものではない。じつは、昭和50年代に、各地で孝子表彰制度が復活したことがある。しかしそれも、現在はほとんど消えてしまった。そこでは軍国主義復活への警戒よりも、「個人情報保護」「平成の大合併」という理由の方が大きかった。

現在一箇所だけ残っている山口周南市の例や、孝子表彰が新聞で批判された茨城県小美玉市の例などを挙げて、戦後日本と孝との関わりを明らかにする。✦

第 47 回
2019. 03. 26

講　題 / テーマ：
日本の外来語受容の背景—ビール BEER をめぐって—

講　師：
郡千壽子（弘前大學副校長）

▲郡千壽子教授

摘要：

日語的詞彙可區分爲和語、漢語、外來語與混種語等四種。本演講將針對上述四種類別，簡單舉例說明。接著，將聚焦外來語，論述其如何定型於日語之中。

此次將以「ビール　BEER」爲例，探討其在日語中被定型之背景，亦即其在何時、由誰傳入日本，以及如何爲日語所受容至今等。在追尋詞彙定型前之軌跡的同時，介紹日本外來語受容之面相。✦

要旨：

日本語の語彙を分類すると、和語・漢語・外来語・混種語の四種類に分けて考えることができる。これらの種別について、具体例を挙げて簡単に説明する。そして、外来語に焦点を絞って、どのように日本語のなかに定着してきたのかについて考えてみる。

今回は、「ビール　BEER」の語を例として、いつ頃、誰によって日本にもたらされ、どのように受け入れられて、現代に至るのか、その背景について検討する。ことばが定着するまでの道のりを追いながら、日本の外来語受容の一面を紹介したい。✦

第 48 回
2019. 05. 21

講　題 / テーマ：

「言（ことば）」と「事（わざ）」と「心（こころ）」―日本の解釈学の古典―

講　師：

江藤裕之（東北大學大學院國際文化研究科教授）

▲江藤裕之教授

摘要：

我們人類以語言來交換、共享資訊與想法，而語言時常可以超越時間與空間的限制。藉由閱讀 1000 年前的人所寫下的詩歌與故事，能讓我們融入當時的世界，體會作者心中的情感。代表江戶時代學問之一的國學就是通過研究古文獻，企圖來瞭解受到外來文明侵蝕之前日本人內心的原初風景，而其最主要的就是語言的研究。進入明治時代之後，爲了從事新的日本研究，對方法論進行充實，並從西洋引進作爲「理解」之學的文獻學。對人類思想的產物、也就是已經認知的事物加以重新認識這一文獻學的理念與方法，與研讀古典並正確地解讀其語言，瞭

▲林立萍教授

要旨：

私たちは、言葉を用いて情報やアイディアを交換し共有している。それは、時間と空間の壁を超えていくものである。1000年以上も前に書かれた詩や物語を読み、その世界を思い起こし、作者の心に共感することができる。江戸時代を代表する学問のひとつである国学は、古文献の研究を通じて外来の文明に侵食される前の日本人の心の原風景を明らかにしようとした。その中心にあったのが言葉の研究である。明治になって、新たな日本研究に向けて学問的方法論の整備が進められたとき、西洋から「理解」の学問としての文献学が紹介された。人間の精神によって生産されたもの、つまり認識されたものを認識するという文献学の理念と方法は、古典を読み込み、その言葉を正しく解き明かし、古意（いにしえごころ）、すなわち日本人の本来の心を追体験しようとした国学の方法と重なるものであった。本講義では、国学を代表する本居宣長が著し

解「古意」，意即再次體驗日本人原本心境的國學方法有著異曲同工之妙。在此次課程中，將介紹身爲國學代表的本居宣長及其針對初學者所撰寫的學問心得著作《初山踏》，觀察宣長的學問觀及語言觀，並與起源自西洋古代，在十八至十九世紀德語圈爲主的西歐所成立的文獻學相比較，尋找其共通點，並思考其背後的社會環境及知識背景。✦

た初学者への学問の心得の書『うひ山ぶみ』にある、宣長の学問観、言語観を見ながら、西洋古代に起源を発し、18～19世紀のドイツ語圏を中心とした西欧で完成を見た文献学（フィロロギー）との共通点を探りつつ、その背後に共通した社会状況や知的状況を考えてみたいと思う。✦